

「夢、無限大」
感動おばま

広報

おばま

12

DEC.2016
No.756



【特集】ツナガル野菜
食と農が照らす地域の未来

《今月の題字》
西津小学校6年生 東谷 愛唯 さん

ツナガル野菜

小浜が全国に誇る食育の取り組み「校区内型地場産学校給食」。食と農がつながることで、人と人、人と地域がつながっています。一方で、給食に食材を提供している生産者は高齢化が進み、後継者不足にも悩んでいます。食の担い手とそれを受け継ぐ人たちの姿を追いました。



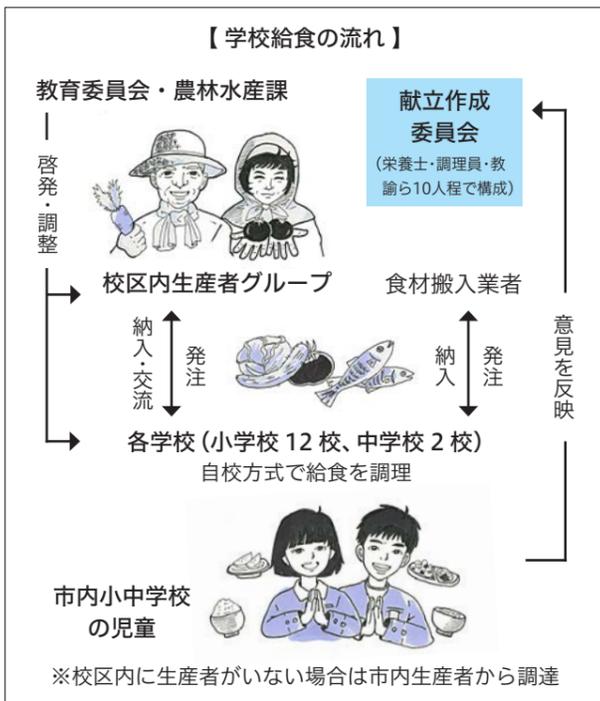
給食食材生産者の東さん一家と中名田小学校5年生小堂結花さん、3年生真実さん、1年生開勢くんの姉弟

それは山間の、ある小さな小学校から始まりました。平成14年に中名田小学校で

産声をあげた『校区内型地場産学校給食』。学校がある地域の中で収穫された野菜や米を積極的に給食に使う取り組みは、「中名田方式」として、瞬く間に市内の小中学校に広がります。全国に先駆けた取り組みには、毎年多くの視察が訪れるようになり、やがて県や国を動かしていきます。

食のまちづくり 小浜から全国へ

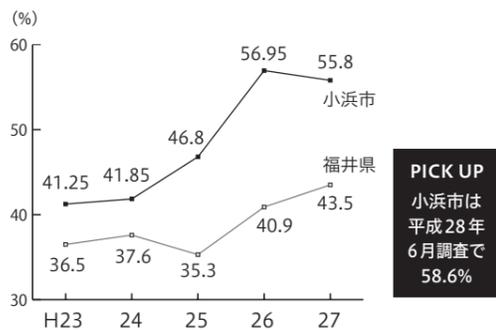
市が「食のまちづくり」に取り組み出したのは平成12年。13年には全国で初めて『食のまちづくり条例』を制定し、つて朝廷に食材を送っていた「御食国」としての歴史と、豊かな食材を生かした独自のまちおこしをスタートしました。翌14年には、教育委員会が立ち上げた『御食国若狭おぼ



ま食の教育推進事業』の一つとして、校区内（または市内）の生産者から野菜や米、水産物などの食材を直接学校給食に納入する『校区内型地場産学校給食』が始まりました。地産地消の取り組みは、全国に広まり、国は平成20年に、学校給食法を改正。学校給食を用いた食育を進めるに当たり、「地域の実情に応じた地場産物の活用」に努めることが位置づけられました。農林水産省でも、『学校給食地場産農畜産物利用拡大事業』を実施するなど、国を挙げた推進が図られるようになりました。学校給食に地場産物を活用することは、新鮮な食材を使う向上、地域に根差した学校づくり、自給率の向上など、さまざまなメリットがあります。「子どもたちに安全でおいしい給食を食べさせたい」という思いで多くの人がつながり、これからも学校給食の取り組みは続いていきます。

学校給食で積極的に地場産食材を使用

【県内の学校給食における地場産食材使用率】



【県内の学校給食における地場産食材使用品目数】

22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
21.9品目	23.0品目	24.1品目	23.7品目	25.0品目	26.9品目

福井県「学校給食食材産地別使用量調査」より

INTERVIEW



小浜中学校栄養教諭
小堂 典子さん(60歳・下田)

昭和52年に学校栄養職員として採用。平成28年度学校給食文部科学大臣賞受賞

給食は小中学生の成長期の食事の支援はもちろん、学習・体験の場の一つでもあります。集団活動や食文化、マナーや衛生面を学ぶうえでも給食の果たす役割は大きいと思います。地場産食材も積極的に使うことで、小浜でどんな野菜や魚がとれて、どんな味がするのかを知ってほしいですね。地場産食材は、安くて安心、新鮮で、おいしく、栄養価も高いです。子どもたちと生産者との農業体験なども各校で行われ、交流が生まれています。

1. 育てる

あなたに食べてほしいから
手紙のように思いを込めた野菜

子どもたちはみんな孫のような存在 スクスク育つ姿を見守りたい

校区内型地場産学校給食が生まれた場所、中名田小学校では、現在8人の農業者と『森の郷なかなかた産物組合』が、給食に食材を納入する生産者グループに登録しています。グループの立ち上げから参加する橋本さんと村上さんに話を聞きました。

孫のような子どもたち 新鮮な野菜を届けたい

秋冷えの朝、橋本さんは家の隣の畑に出て、その日納入する野菜を収穫します。「子どもたちに新鮮なものを食べさせてやりたいから」と、冷水でとれたての野菜を洗います。



右/村上さんは約700㎡の畑を毎日見回り、野菜の手入れをしている。左/橋本さんの畑。この日は給食用のコマツナを収穫した



橋本つや子さん
(83歳・和多田)

約350㎡の畑で、夏はタマネギやピーマン、秋からはハクサイやキャベツなどの葉物を育てている橋本さん。「虫がついたり苦勞が多いけれど、何とか良い野菜を作りたくて頑張っています」と笑顔を見せます。

「化学肥料はあまり使いたくない」と、モミガラや魚粉などを混ぜて、発酵させた肥料を自ら作っています。



村上はる子さん
(83歳・深谷)

「秋冬は手が冷たいし、草取りは腰も足も痛くなつて大変です」と笑いながら苦勞を話します。

「中名田小学校の生産者グループは高齢化が進み、やめる人も出てきました」と話す橋本さん。「私たちが年やし、代わりの人がいるといいのですが、なかなか見つかりません」

村上さんも、「若いときと比べて、重い野菜のカゴが持たなくなってきました」と言い、「いつまで野菜を届けられるかなあと考えてしまいました」と学校給食のこれからの心配します。

不安を抱えながらも、2人は力強く前を向きます。

「できる限り野菜づくりは



生産者の畑には児童の作る似顔絵看板がある

子どもたちのことを思うと、元気が出てくるんや

子どもたちのことを思うと元気が出るという村上さん。「子どもたちには中名田の野菜をたくさん食べさせてやりたいです。『おいしい』という声を聞くと、また頑張らねばと思いますね」

豊かな自然に囲まれた中名田の大地で、橋本さんと村上さんは畑を耕し続けます。

登下校のときに声をかけてくれる子どもたち。橋本さんにとってはみんな孫のような存在だと言います。

「みんな野菜をよるこんでくれる。スクスク育つ姿を見ていると頼もしいですね」

野菜づくりは一生勉強
食べてくれる幸せ

語ります。

それでも、「毎日畑に出て野菜の顔を見ないと気がすまない」と話し、「まだまだ、年によって野菜の出来が左右されてしまいます。野菜づくりは一生勉強ですね」と意欲をみせます。

「ここは、みんなが子どもを見守り、大事にする地域。私も子どもたちのために、野菜やお米を届けたいです」

後継者不足への不安 学校給食の未来は

校区内型地場産学校給食の試みが始まって10年以上が経ち、地産地消の取り組みが全国的に広がった今、2人が口を揃えて語るの、将来への不安です。



小浜市食のまちづくり課
吉岡和広 主幹 (47歳)

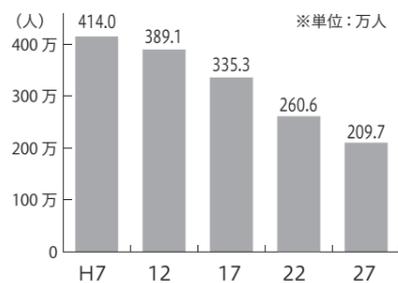
INTERVIEW

地域の皆さんに支えていただき、人と人のつながりのなかで今日まで続いてきた、「校区内型地場産学校給食」は、本市の宝といえる食の取り組みです。

子どもたちのことを考えながら、日々野菜やお米などを届けてくださる生産者の皆さんに心から感謝するとともに、市としても、食のまちづくりに一層取り組んでいきます。

農業就業人口は年々減少

【全国の農業就業人口の推移】



小浜市の農業就業人口も、平成7年1,955人→12年1,558人→17年1,335人→22年971人→27年645人と減少。それに伴い学校給食の食材生産者も減少しています。

農林水産省「2015年農林業センサス報告書」と福井県「同農林業経営体調査結果(速報)」より

おばあちゃん野菜、これからも食べ続けたい



上段・下段右/「いただきます」をした後、元気よく給食を食べる子どもたち。下段左上/毎日、放送当番がその日使われた食材の生産者を読み上げている。下段左下/校内には卒業生が描いた生産者の似顔絵が掲示されている



右/給食調理員歴20年以上の井上さんを吉村さんは「師匠」と慕う。左上・左中/児童・教員合わせて約50人分の給食を毎日作る。左下/11月1日のメニューには橋本さんのコマツナと村上さんのジャガイモが使われた

地域の自然と農家の皆さんに心から感謝

2. 受け取る

調理することは優しさを込めること
食べることは思いを噛み締めること

みんなが身近に 感じる給食を目指して

中名田小学校の調理室では、給食調理員の井上さんと吉村さんが、朝から給食の準備に取りかかっています。「切り方はこれぐらいの大きさが大丈夫かな」。吉村さんが尋ねると、井上さんが確認。辛すぎないか、固さはちょうど良いか、温度は大丈夫か。衛生面にも注意を払いながら、調理を進めていきます。



井上 芳恵さん
(64歳・下中井)

日々届けられる地産産物の野菜について、「安心安全でおいしい。新鮮で、調理もしやすいです」と話す井上さん。



吉村 喜美子さん
(59歳・駅前町)

吉村さんも、「食材を作る人と食べる子どもたちの顔が見えて、お互いに身近な存在です。とてもやりがいがあります」と笑顔を見せます。

給食を作るうえで大切にしているのは、児童や生産者とのコミュニケーション。「みんなの声を聞いて工夫したいですね」と言う井上さん。残食もほとんど出ないそうです。

調理が終わる、食器を洗いながら、頭はすでに明日のメニューのことへ。それでも、大変だと感じることはないそうです。子どもたちの、「おいしかったよ」を原動力に2人は今日も給食を作ります。

その土地の味がする 給食で育つ心

児童数38人の中名田小学校では、4クラス(内複式2クラス)に分かれて、子どもたちと教員が給食を取ります。「いただきます」と、元気のよい声が教室いっぱいに響いた後、給食がスタート。スピーカーからは、放送当番が読み上げる今日の食材と生産者の名前が聞こえてきます。



中道 漣くん
(中名田小学校5年生)

5年生の中道くんは、「中名田の自然の中でできた野菜は、中名田だけの味がする」と胸を張ります。

家でもイモ掘りなどを手伝い、野菜づくりの大変さを知っている分、「ごちそうさま」を言うときは、「おいしかったよ、ありがとう」と、心の中心でも手を合わせるそうです。



野瀬 望矢さん
(中名田小学校6年生)

6年生の野瀬さんは、家の近くに住む生産者の橋本さんを、「おばあちゃん」と慕います。学校給食のおかげで、「食わず嫌いをしていたピーマンが好きになった」と話し、「これからもおばあちゃんの野菜を食べ続けたいです」と笑顔を見せてくれました。

家庭でも給食の話が出ると野瀬さんの母親・玲さんは言います。「野菜を作っている畑のことを子どもが教えてくれました。学校給食が地域愛につながっていると思います」「地域全体で見守り、支えてくれる環境で、子どもたちは心も体も育っています」



野瀬 玲さん
(40歳・和多田)

3. 支える

思いへの共鳴
人を動かす大切なスパイス

日常にあるものが、輝く価値 小浜の学校給食を「支える人」に聞く

市では、校区内型地場産学校給食の取り組みを映像に記録して、広く全国に発信しようとして、小浜のまちおこしに関わるなど、ゆかりの深い映像監督の越前屋俵太さんに制作を依頼。完成した作品が大きな話題を呼んでいます。

今日もそこにある日常 人の心を動かす可能性

「作品を作るにあたり、小浜の学校給食と農業の関わりを教えてもらったときは衝撃でした」と越前屋さんは当時を振り返ります。



映像監督・演出家
越前屋 俵太 さん (54歳・京都府)
数々のテレビ番組を企画・演出・出演。大学客員教授、書家、御食国大使としても活動



中名田地区の畑で作品の撮影をする越前屋さん

「すばらしい取り組みだと思ふ反面、どう映像で表現したらいいんだろうか」と、半年間悩んだ結果、主役は小浜に住む人であり、そこにある日常を、ありのまま切り取ることを決心します。

「今日もおばあちゃんたちが野菜を作り、子どもたちが給食で食べている。小浜では当たり前なことだけど、他ではできないところに価値があると感じました」

近年、話題になることが多い各自治体のプロモーション動画も踏まえつつ、「面白おかしい動画は確かに多くの人が見るでしょう。私自身もこ

れまで作ってきた映像では、むちゃくちゃをやって笑いを生んできました。でもこの取り組みにはまじめでありたかった」と、これまで得意としてきた演出スタイルをあえて「封印」して撮影に臨みました。

「動いていく時代の中でも、変えてはいけないうるものがあります。そこを見失わないように、記録する必要があります」

一方で、撮影を進めていくうちに、「だんだんと悔しくなってきたんです」とも打ち明けます。生産者の高齢化が進み、後継者も少ない現状に「このまま放っておいては、この取り組みは途絶えてしまう」と危機感を抱きます。

作品が完成した今、映像を見て観光客が増えるよりも、多くの市民、関係者に見てほしいと、越前屋さんは訴えます。「二人でも二人でもいいので、作品からそのことを感じてほしい、校区内型地場産学校給食をなくさないように動いてほしいです」

子どもは地域の宝 安心安全な食を届ける

小浜市農業委員会の会長を務める西田さんは、地域が主体の農業を掲げ、集落営農や園芸作物の導入などを推進することで、「みんなで農地を守ろう」と呼びかけます。



約11,000mのふれあい畑を組合で管理する

「行政との連携や補助金の活用は必要ですが、地域の農業は地域に住む私たちが守っていかなければいけません」

平成17年に松永地区と遠敷地区の住民で『小浜東部営農生産組合』を立ち上げ、19年に法人化。園芸作物の導入や、直売所の設立、女性の経営参画など、新たな担い手となる農家の育成と環境整備に取り組んできました。

中名田地区の農業者に刺激を受けて、学校給食にも参加。「子どもたちが食べるものを目に見えるところで作りたい」と、上野区の通学路沿いに『ふれあい畑』を作り、そこを中心に育てた野菜や米を



小浜市農業委員会 会長
西田 尚夫 さん (69歳・三分一)
平成26年に会長に就任。小浜東部営農生産組合代表理事や市食育推進委員も務める

松永小学校や遠敷小学校、松永保育園に出荷しています。

食事の3分の1を占める給食の役割は大きいと話す西田さん。「地域の宝である子どもたちは、給食を食べて大きく育ってほしいです。そのために、私たち農業者が頑張

ることで、おいしく、安心安全な食材を届けたいです」

「ゆっくりとだが着実に進んできた」という『ふれあい畑』。今では、苗植えや収穫体験など、子どもたちが農業に触れる場になっています。

「生き生きとした農業者の姿を見て、将来子どもたちが農業を志してくれとうれしいですね」と西田さんは笑顔を見せました。

学校と農業者をつなぐ 行政が果たす役割

14年前に中名田小学校で校区内型地場産学校給食を始め

小浜市教育委員会
森下 博 教育長 (68歳・今宮)
中名田小学校長だった平成14年に校区内型地場産学校給食を発案。20年から現職



た森下教育長は、「高齢化する地域を給食を通して活性化したかったんです」と、取り組みに込めた思いを話します。「珍しい料理を出すのではなく、豊かな自然と水で作られた地場産の食材を使うことが、子どもたちの教育につながると思います」

給食を、子どもたちの健康維持だけでなく、「学びの場」として捉えて、生産者との交流活動も推進してきました。「交流は子どもたちの道徳心も育てます。地域とのつながりを認識し、郷土愛を育てるためにも重要な場なんです」



地域で稲刈りの体験交流をする中名田小学生

行政を「学校と農業者のつなぎ役」と位置づける森下教育長。教育委員会と農林水産課が連携することで、平成28年から全小中学校で市内産米の供給を実現するなど、積極的に取り組みを進めています。

【食の取り組みPRムービーを配信中】

市の食の体験事業映像記録業務として、平成27年9月から28年3月まで制作が行われ、『校区内型地場産学校給食』『キッズキッチン』など3本の映像作品が完成。動画共有サービス『YouTube』を通して配信しています。

動画の再生は下記QRコードから▼





小浜市農林水産課
御子柴 北斗 課長 (32歳)

INTERVIEW

全国的に農業の担い手の高齢化・減少が進む中、小浜では、メガファームや大規模施設園芸、おばまアグリスクールなどの新しい取り組みが始まっています。このような取り組みのためには、地域の皆さんで今後の地域と農業のあり方を考え、支えていくことが重要です。行政としても、小浜の宝である食と農を未来につなげるお手伝いをしていきます。

Uターン・Iターン者 歓迎！
おばまアグリスクール研修生募集

園芸を中心とした2年間の農業研修システムです(研修先:山本農園)。研修手当(月7万円)や宿泊棟の支援、研修後の就農相談、市内就農奨励金など市が全力サポートします。

一步先の農業者へ
先進地研修を支援します

市内就農もしくは農業経営に必要な技術等の習得を目的とする人を対象に、園芸産地の先進農家での研修(6カ月以上、12カ月以内)支援を行います。

※詳しくは、農林水産課 ☎64・6022 まで問い合わせください



上/9月16日に宮川小学校児童と若狭の恵、地区老人会の皆さんと一緒に稲刈り
右/トマトの生育状況を確認する山本さんと中尾さん



4. 受け継ぐ

多様な担い手たちが、次世代につなぐバトン

あなたがうれしい わたしもうれしい 絆の数だけ、未来が生まれる

全国的に農業者の高齢化が進む一方で、新規就農者数は過去5年間で最も多くなるなど、今農業に注目が集まっています。小浜で活動する次世代の担い手たちを追いまして。

農業がある風景
守り続ける決意

秋空の下、宮川小学校の児童35人が学校給食用の田んぼで元気に稲刈りをしました。



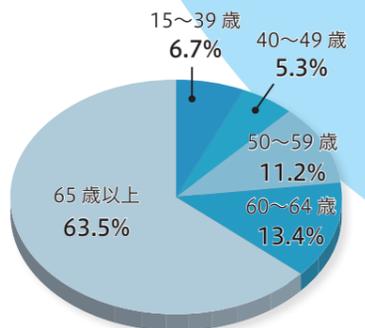
前野 恭慶 さん (55歳・加茂)

田んぼの管理をしているの

は、平成27年7月に嶺南初のメガファームとして宮川地区に誕生した『若狭の恵』です。代表取締役社長の前野さんは、デザイン会社の経営者から起業を決意。「うちは先祖代々農家で家族が農業をする姿を見て育ちました。生活の中に農がある宮川の風景を守りたいと思います」と話します。「農業は可能性がある」と言う前野さん。約150畝の農地で水稲などを育て、市内6小中学校の給食に米を納入。「子どもたちに宮川のおいしいお米を届けたいです。食べて育った子たちが、将来の担い手になってくれるとうれしいですね」と笑います。

新規就農者数は増加傾向

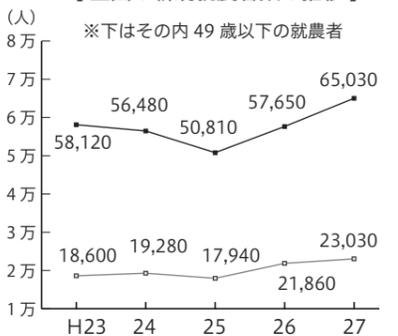
【平成27年 全国年齢別農業就業人口】



農業就業人口は、全国209万7千人(平均66.4歳)、県内1万8,512人(平均70.2歳)

農林水産省「2015年農林業センサス報告書」と福井県「同農林業経営体調査結果(速報)」より

【全国の新規就農者数の推移】



農林水産省「平成27年新規就農者調査」より

受け継ぐ「思い」
さらには次の世代へ

中名田小学校で校区内型地産産学校給食がスタートした平成14年から野菜を納入し続ける農家の東さん。学校農園の管理や稲刈り体験も、「子どもたちとの交流が楽しいから」と積極的に手伝います。平成25年からは、息子夫婦で兼業農家の清俊さんと美幸



東 禎子 さん (78歳・下田)

Uターン者と
Iターン者の挑戦

今富地区でトマトとキュウリを栽培し、今富・小浜小学



木村 理乃 さん (宮川小学校5年生)

稲刈りに参加した同校5年生の木村さん。家でも田植えや稲刈りを手伝い、宮川のお米が大好きだと話します。「給食では放送当番として、みんなに食べ物や作ってくれた人に感謝していただきましょうと呼びかけています」と、笑顔で教えてくれました。



山本 聡 さん (36歳・生守)

校、小浜中学校の給食に納入している山本農園。代表取締役社長の山本さんは、25歳のときに県外から生まれ育った小浜に戻り農業を始めました。「おいしい野菜で食べる人を楽しませて、笑顔にしたいです」と意欲を示す山本さん。気象学や植物学を学び、農業に取り入れることで、小浜の気候や水、空気に合った野菜の栽培を目指しています。「安定供給できる方法を確立し、次世代に伝えたいです」



東 清俊 さん (57歳・下田)

さんが、仕事の合間を縫って作った米を同校の学校給食に納入するようになりました。「自分のふるさとの野菜やお米はおいしいと子どもたちが胸を張れるように、がんばりたいです」と話す清俊さん。美幸さんも、「郷土の食材で育ったという思い出が、子どもたちが大人になったときに、中名田に戻って来るきっかけになれば」と期待を込めます。



東 美幸 さん (54歳・下田)

地域で休耕田の草刈りを行うなど、清俊さんは、「若い世代に引き継げる農地づくり」を目指しています。「若者がもつと農業をしやすい環境を作りたいです。将来のことを考えて、地域で一体的に農業に取り組む集落営農の道も模索しています」家族から地域へ、農業の輪を未来へつなぐために、東さんの取り組みは続きます。



中尾 充宏 さん (29歳・生守)

大阪出身で同農園の農場長を務める中尾さんも、「野菜は手間ひまかけた分だけ味に反映されるのがいいです」と農業のやりがいを感じています。「子どもたちのときに食から学ぶことはとても多い」と話す山本さん。「作り手の見える食材を食べることで、食べ物に対しての思いが磨かれます」給食の残食が少ないことには、「一番うれしい。残さず食べてくれてありがとうと伝えたいです」とほほえみました。

多くの地方をその足でめぐり、地域ならではの取り組みを応援してきた、日本が誇る識者の藻谷浩介さんと小田切徳美さんが、小浜の地場産学校給食、そして農業の未来について語る

進む空洞化 離れる食と農の距離

1960年代の高度経済成長期に、地方で「人の空洞化」が起こるようになってきました。80年代は、耕作放棄地が増大し、「土地の空洞化」。90年代には、集落の機能低下が著しく、「むらの空洞化」が社会問題となります。現代では、日本全国どこの地域も、人・土地・むら（集落）の空洞化にあえいでいるというのが現状です。

3つの空洞化が進むと、本質的な「誇りの空洞化」を引き起こしてしまいます。その土地に対して、自らもしくは次の子ども世代が住み続けたいと思わなくなることで、

都市部と農山村の地域格差が広がる中で、食と農の距離も離れるという現象が強くなってきています。

人々の食生活に外食や中食（持ち帰り）が増え、その過程でどん

な農産物が使われているかが見えにくくなっています。地方や農業は徐々に力を失い、今は消滅と存続の狭間にあると言えます。

地域農業が生き残る鍵は多様性

一方で、食と農の距離を縮める動きも地方から出てきています。代表的なのは直売所で、地場産学校給食もその一つと言えます。食と農の関係を、顔の見える距離まで縮めることは非常に大事なことですし、個人農業者に所得ができ、小さな経済も生み出しています。



地域の農業が生き残る上で、重要なのが、多様な農業、多様な担い

手を作っていくことです。大規模農家だけでなく、高齢者や若者、女性、集落営農まで、多様な農業が併存し、お互いに切磋琢磨できることこそが、地域農業の強みです。

「田園回帰」と地域の誇りの再生

2000年代から徐々に都市部の若者が農山村に向かうという「田園回帰」が見られます。若者の意識変化によるこの現象は、これまでの50年とは違う、新しい50年のスタートを象徴しているかもしれません。東京一極集中を進めるのか、日本中隅々まで輝くような多様な地域を創るのか。今がまさにその岐路だと思えます。

地域の皆さんには、声をあげると同時に、諦めないでほしい。空洞化が進み、地方の消滅すら言われる状況の中で、地域の方々はときとして諦めてしまいがちです。まだまだ地域には多くの可能性が眠っており、田園回帰の流れを受けて、地域再生に向けた政策的な支援も進んでいます。可能性を共有し、一人一人が当事者意識を持って、自ら行動し、問題解決の道を切り開くこと。その動きが地域の誇りの再生につながっていきます。



おだぎり とくみ ■昭和34年生まれ。日本を代表する農学者の一人。専攻は農政学・農村政策論・地域ガバナンス論。著書に『農山村は消滅しない』『地域再生のフロンティア』など

小田切 徳美 さん

明治大学農学部 教授

多様な担い手が地域農業の鍵
地方消滅論に下を向かずに
新しい半世紀のページを開くとき

藻谷 浩介 さん

(株)日本総合研究所調査部 主席研究員

「人」と「地域」がつながる
小浜の学校給食の取り組み
どこよりも本質的な豊かさ

地場産学校給食 本質的な豊かさ

小浜の「校区内型地場産学校給食」は、とても価値のある取り組みです。若狭が「御食国」であるということをこれほど端的に表現できるものはないと思います。

給食の世界で地産地消をやっているケースは全国でもまだ少なく、地域の中でもなかなか食材が揃いません。単に地産地消でも素晴らしいのですが、「校区内」が加わることで、教育としての価値は極めて大きくなります。

多くの人は、本当に生産者の顔が見えるものはごく一部しか食べていません。子どもたちが、自分の校区ではどういうものが採れるのかを給食を通じて学ぶ。そのことが、知識や経験の豊かさにつながります。校区ごと、地域ごとに違いがあって、多様なところで生きているということを理解することが人間の本質的な豊かさです。

本来、日本は食のバリエーションが非常に豊富な国ですが、近年はそれを見失いがちです。同じ物をコンビニやスーパーで買って大量消費することが効率が良いという価値観ではなく、地域で季節ご

もたに こうすけ ■昭和39年生まれ。全国の地方自治体を訪れ、地域振興について研究・著作・講演を行う。NHK広島取材班との共著『里山資本主義』で新書大賞2014を受賞



とに採れたものを食べるという生活があることを、学校で教えなければいけない。それが食育です。



地産地消が持つ経済的な価値

地産地消は精神的な豊かさはもちろん、経済的にも非常に重要です。地元産の食材を地域の中で消費することで、外へ出る金額は少なくなり、地域内循環が生まれます。食文化が多様であればあるほど、名産が育つ可能性や、経済的なチャンスも増えていきます。

大分県の湯布院や北海道のニセコ町は地産地消を進めることで、観光誘客という経済効果と、生産者増

による人口増につながっています。

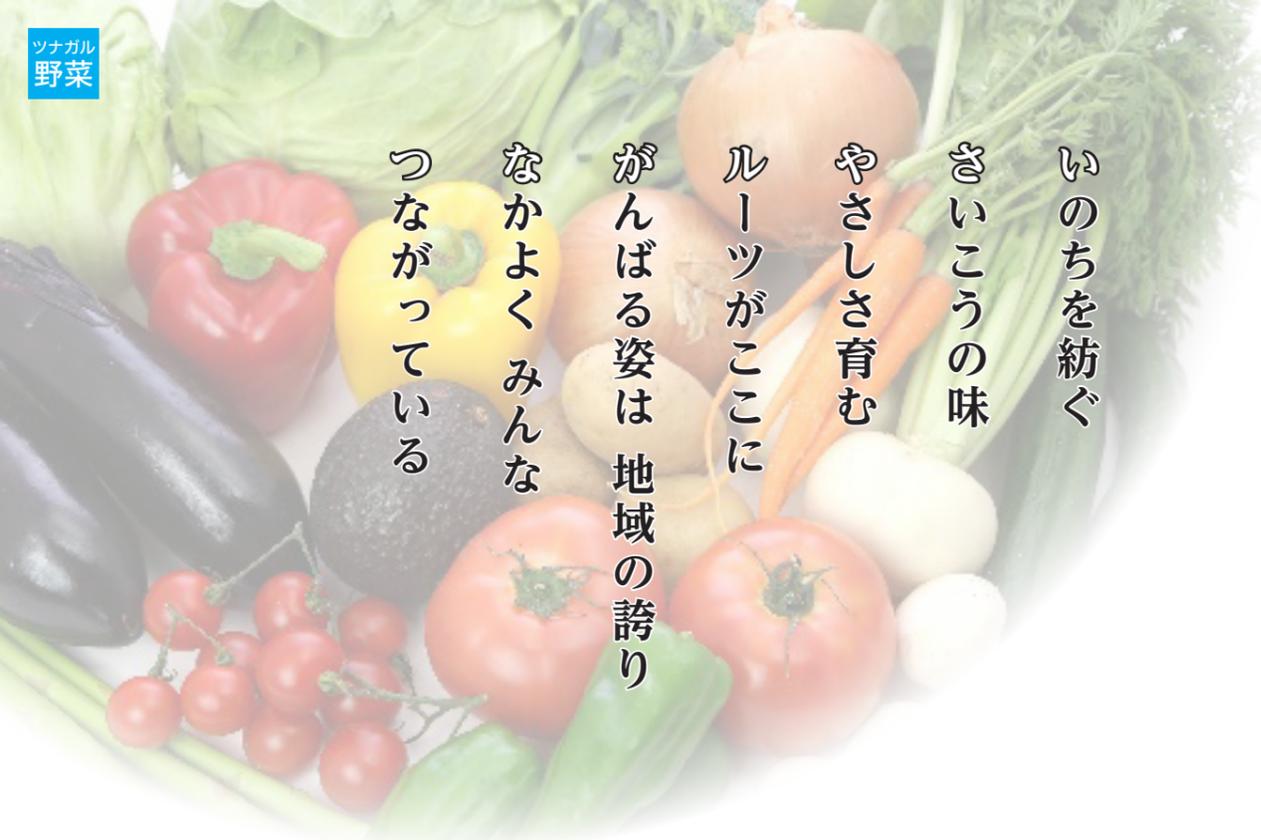
活性化している地域は、地元で採れたものを使い、最終的に地元にお金が落ちる産業づくりをしています。地産地消はすべての産業の基本なんです。

里山の恵み 胸を張って自慢を

食と自然エネルギーが循環再生する「里山」は、都会よりもはるかに豊かで可能性に満ちています。

小浜は、水と食材の供給力が強く、生産者にもやる気があるので、校区単位での食材提供が可能になります。今後は、地産地消が給食だけでなく、福祉施設や観光関係など、地域全体に波及していくことを期待したいですね。

行政には総合的な産業・文化戦略として考えてほしいですし、市民の皆さんはこの取り組みを胸を張って自慢してほしいです。



いのちを紡ぐ
さいこうの味
やさしさ育む
ルーツがここに
がんばる姿は地域の誇り
なかよくみんな
つながっている

6. 広がる

地域に広がる新しい可能性
野菜づくりは、誇りづくり



右上/11月6日に行われたピザづくり。窯も加斗クLOVEのメンバーが組み立てた。左上/上加斗の農園でピーマンなどを収穫。右下・左下/この日は、地元加斗小学校の3年生5人や地域おこし協力隊の隊員らが参加した

給食農園で野菜づくり 地域を誇るきっかけに

誰でも参加できる農園 担い手づくりの第一歩

今、加斗地区で若者による新しい取り組みが始まろうとしています。20代から30代の地域住民で作るまちづくりグループ『加斗クLOVE』が、学校給食用の農園を作るという事業『ツナガルマルシェ』です。代表で専業農家の木村さんは、給食食材提供者の担い手不足という課題を解決するために、「農業者だけでなく、保護者や地域の人も気軽に野菜づくりに参加できる農園を作ろう」と思いました」と話します。



木村 武史 さん
(35歳・上加斗)



森本 達也 さん
(33歳・鯉川)

「農園をさまざまな立場の人やものをつなぐ場所にした」と意欲をみせる木村さん。年間栽培計画を立てて、野菜づくりを進めるとともに、小学生や市民を招いての収穫感謝祭も予定しています。「ここでの体験を第一歩に、新しい形の担い手を生んでいきたいです」と力強く前を向きました。

「野菜づくりが地域に目を向け、誇るきっかけになっ

てほしい」と期待を込めます。

11月6日⑩、この農園で、地元の子どもたちを招き、収穫した野菜を使つてのピザづくりが行われました。親子で参加した森本さんは、「これまでは農業に携わる機会がありませんでした。自分が作った野菜を子どもたちが食べてくれるうれしいので、積極的に参加したいです」と笑顔で話しました。

「未来」を育むニューシニア

かつて日本のものづくりは、目の前の誰かを喜ばせるためにあるものでした。しかし、効率や生産性を重視するあまり近代の日本はその姿を見失い、生産者と消費者の距離は次第に離れていきました。

食料自給率は先進国中最低レベルに落ち込み、食品への信頼低下や孤食、生活習慣病が社会問題化。農業者の高齢化や耕作放棄地の増加、コミュニティ衰退や消滅論などさまざまな不安が私たちを取り巻きます。

一方で、地方の持つ多様性や人の絆に光が当たり、移住者や新規就農者の増加につながるといふ、田園回帰の流れが生まれています。呼応するように小浜でも新たな食の担い手たちが、先人の思いを守り、さらに次の世代へ受け継ごうと奮闘しています。

人と人が「食によってつながる暮らし」は、地域の宝である子どもたちの心と体を育て、やがて豊かな未来へとつながります。

食と農の取り組みは、野菜やお米を作るだけでなく、「選ぶ」「届ける」「調理する」「食べる」など、この地域で暮らす全ての人が、さまざまな立場で参加することができます。

今、あなたがつながること、育つ未来があります。

あなたの野菜を給食に出してみませんか



教育委員会では、学校給食に野菜などの食材を納入いただける人を募集しています。農業者だけでなく、家庭菜園をしている一般の人でも構いません。「家庭で食べても野菜が余ってしまう」という人はぜひご連絡ください。「作る量が少ない」「形が整っていない」「一年を通じて出せない」と悩んでいる人も、一度ご相談ください。

■問い合わせ 教育総務課 ☎64・6032

【参考文献】

「里山資本主義」 澤谷浩介・NHK広島取材班 著/角川書店
 「農山村は消滅しない」 小田切徳美 著/岩波書店
 「学校給食への地場食材供給」 山田浩子 著/農林統計出版
 「心と体を育てる食育」 小川雄二・中田典子 著/新日本出版
 「食と農を学ぶ人のために」 祖田修・杉村和彦 編/世界思想社
 「やさしくて正直な「食の作り手」たち」 浜美枝 著/家の光協会
 「農のある人生」 瀧井宏臣 著/中央公論新社
 「この国のかたちと農業」 田代洋一 著/筑波書房
 「農村地域における資源の循環活用と管理」 熊谷宏ほか 編/農林統計出版

産業振興功労



福井県猟友会小浜支部

昭和42年に発足以来、50年にわたり、野生鳥獣の保護や有害鳥獣の駆除および狩猟の適正化に尽力され、本市の農林水産業の健全な発展に大きく貢献されています。小中学校と連携した野生鳥獣に関する総合学習やジビエの普及にも尽力されています。

社会福祉功労



要約筆記サークル ハンドリリーフ

平成15年に発足以来、敬老会やふれあいまつりなど多くの行事等に要約筆記ボランティアとして参加されるとともに、難聴者・児との交流会を開催するなど、聴覚障がい者や難聴者の社会参加促進や要約筆記の啓発に大きく貢献されています。

自治振興功労



しみず ひろゆき
清水 博敬 さん
(68歳・田烏)

平成16年から4期12年わたり、情報公開・個人情報保護審査会委員を務められました。社会の情報化が急速に進展し、個人情報の適正な取り扱いが求められる中、本市の情報公開と個人情報保護行政の推進に大きく貢献されました。

平成22年5月から平成28年4月までの6年間、同審査会の会長を務められました。

平成28年度 市長表彰

5個人2団体を表彰

本年度の市長表彰を受けた5個人2団体の皆さんを紹介します。

市長表彰は、政治、経済、教育文化などで市政振興に寄与され、市民の模範となつて活躍された個人や団体を表彰するものです。市や関係団体から推薦された候補者・候補団体を各種団体長で構成する小浜市表彰選考委員会で審議、選定して、市長が決定します。

■問い合わせ 総務課 ☎64・6002

※本年度の文化奨励賞は、功労の部のみの表彰で、奨励の部の表彰はありませんでした。



みやもと ようこ
宮本 陽子 さん
(64歳・駅前町)

長年にわたり、華道を通じた伝統文化の普及と後継者の育成に取り組まれています。市総合文化祭生け花展などへの参加のほか、市役所、小浜中学校、雲浜公民館での生け花ボランティアなどで、地域の文化活動や福祉活動に熱心に取り組んでこられました。その活動は高く評価され、華道文化の振興に貢献されています。

産業振興功労



なかの たかあき
中野 貴耀 さん
(67歳・酒井)

昭和42年に家業の米酢醸造業を承継され、伝統を守りながらも新商品の開発等に積極的に取り組み、本市の食文化の発信と継承に大きく貢献されています。

平成11年から現在まで17年にわたり、若狭小浜物産協会の会長を務められ、地域産業の振興と活性化に尽力されています。

産業振興功労



しもじょう ただひこ
下丞 忠彦 さん
(69歳・阿納)

昭和62年からトラフグの養殖事業に参入し、市が標榜する「とらふぐ王国」の推進に尽力されています。

魚さばきなどの体験交流施設「ブルーパーク阿納」の開設に中心となつて尽力し、体験学習を通じた教育旅行の誘致活動を積極的に推進し、観光交流人口の増加と地域の活性化に大きく貢献されています。

平成28年度 文化奨励賞

功労の部で3個人を表彰

本年度の文化奨励賞を受けた3個人の皆さんを紹介いたします。

文化奨励賞は、学術・文化の振興に寄与することが顕著であると認められたり、文化活動で将来の活躍を期待される個人や団体を表彰するものです。市や関係団体から推薦された候補者・候補団体を教育文化に関する各種団体長で構成する小浜市文化奨励賞選考委員会で審議して、市教育委員会で決定します。

■問い合わせ 教育総務課 ☎64・6032

教育文化振興功労



たにくち よしろう
谷口 好朗 さん
(68歳・法海)

昭和63年から平成18年まで市文化協会常任理事、その後、平成28年5月まで同協会会長を務められ、本市の文化の振興に大きく貢献されました。

長年研鑽を積んでこられた尺八の演奏分野においては、若狭尺八都山会会主を務められ、市内外の文化振興事業などに多数出演されています。

教育文化振興功労



すどう まさかつ
須藤 正克 さん
(85歳・大阪府)

平成14年から「杉田玄白賞」審査委員会委員に就任され、現在まで約15年にわたり会長を務められています。

医学・医療研究の専門的知識に基づき、公正かつ適正な審査に尽力され、本市の偉人顕彰・食育活動・地域医療・健康福祉の振興に大きく貢献されています。



はしもと まさかず
橋本 正一 さん
(60歳・神宮寺)

長年にわたり、アマチュア劇団員として主たる活動の場である「劇団久須夜」において多くの主役を担い、数多くの公演を成功に導いてこられました。小学校の出前講座で演劇の「メイク」「本読み」「セリフ」の指導を行い、市総合文化祭の芸能大会では、舞台の裏方として活動されるなど、演劇文化の振興に貢献されています。



やました やすえ
山下 安江 さん
(64歳・住吉)

長年にわたり、華道を通じた伝統文化の普及に取り組まれています。地域での文化活動に精力的に参加されるとともに、華道に対する研鑽を重ね、後継者の育成に尽くされています。市総合文化祭生け花展をはじめ数多くの華道展への出瓶など、華道文化の振興に貢献されています。

一給料と手当一

●一般行政職員の経験別、学歴別平均給料月額

経験年数	10～14年	15～19年	20～24年
大学卒	247,600円	298,000円	349,000円
高校卒	196,700円	245,000円	307,400円

●一般行政職員の学歴別初任給

	小浜市	国
大学卒	166,100円	176,700円(II種)
高校卒	144,600円	144,600円

●職員の平均給料月額と平均年齢

	平均給料月額	平均年齢
一般行政職	299,600円	40歳4カ月
技能労務職	287,700円	56歳0カ月

●期末、勤勉手当

	期末手当	勤勉手当	計
6月	1.225カ月	0.80カ月	2.025カ月
12月	1.375カ月	0.80カ月	2.175カ月
計	2.60カ月	1.60カ月	4.20カ月

●退職手当

	自己都合退職	勲奨・定年退職
勤続20年	20.445カ月	25.55625カ月
勤続30年	36.105カ月	42.4125カ月
最高限度額	49.59カ月	49.59カ月

●扶養手当

	月額
配偶者	13,000円
配偶者以外の扶養親族	6,500円

●通勤手当

	月額
交通機関利用の職員	6カ月の定期額を一括支給
通勤距離が2km以上	2,000円～31,600円

●住居手当

	月額
借家に居住	限度額27,000円

●特殊勤務手当

危険、困難な職務についたときに支給。手当は9種類

●特別職の報酬、手当

	月額	期末手当
市長	850,000円	6月…1.50カ月
副市長	710,000円	12月…1.65カ月
議長	440,000円	6月…1.50カ月 12月…1.65カ月
副議長	370,000円	
議員	350,000円	

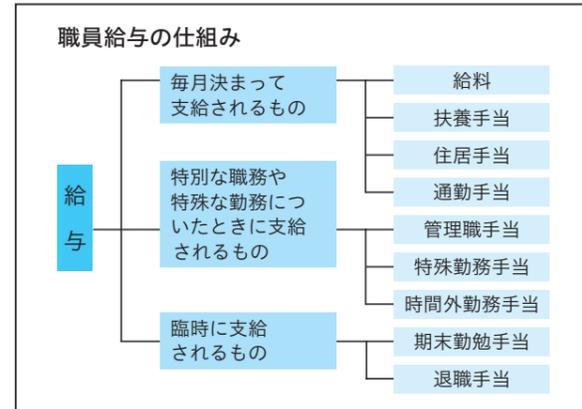
職員給与の公表

平成28年4月1日現在の給与の状況、職員数と人件費を公表します。

職員の給与および定員については、詳細を市公式ホームページで公表しています。

※市職員に支給される給与は、地方自治法と地方公務員法に基づき、市議会の議決を経て市の条例で定められています。

■問い合わせ 総務課 ☎64・6002



一職員数と人件費一

●部門別職員数（各年4月1日現在）

	職員数		
	平成26年	平成27年	平成28年
一般行政関係	226人	227人	229人
教育行政関係	36人	32人	33人
公営企業関係	36人	35人	34人
計	298人	294人	296人

●職種別職員数（平成28年4月1日現在）

	職員数
部長、部次長、課長、主幹	44人
課長補佐（保育園長含む）、企画主査	74人
主査、主事、保育士など	174人
技能労務職	4人
計	296人

●職員給与費（平成28年度当初予算）

	金額
給料	10億9,079万円
職員手当	5億7,970万円
計	16億7,049万円
1人当たりの給与費	542万円

●人件費（平成27年度普通会計決算額）

歳出額(A)	人件費(B)	人件費率(B/A)
168億165万円	25億8,983万円	15.4%

■一般会計（歳入）

科目	予算額	収入済額	執行率
市税	35億1,716	19億1,614	54.5
地方譲与税	1億3,800	3,903	28.3
利子割交付金	700	134	19.2
配当割交付金	2,600	411	15.8
株式等譲渡所得割交付金	1,700	0	0.0
地方消費税交付金	6億1,000	3億1,011	50.8
自動車取得税交付金	2,800	858	30.6
地方特例交付金	1,200	1,355	112.9
地方交付税	47億8,000	32億2,366	67.4
交通安全対策特別交付金	300	180	59.8
分担金及び負担金	4億897	1億218	25.0
使用料及び手数料	2億9,940	1億3,261	44.3
国庫支出金	24億7,673	5億3,062	21.4
県支出金	15億2,650	1億4,237	9.3
財産収入	3,670	1,438	39.2
寄附金	2億21	1,707	8.5
繰入金	5億3,591	0	0.0
繰越金	4億1,759	5億6,060	134.2
諸収入	5億9,810	7,974	13.3
市債	22億4,266	2億9,310	13.1
合計	178億8,091	73億9,098	41.3

■一般会計（歳出）

科目	予算額	支出済額	執行率
議会費	1億8,949	9,772	51.6
総務費	19億6,951	7億3,042	37.1
民生費	45億7,380	16億3,555	35.8
衛生費	25億9,761	5億44	19.3
労働費	1億9,785	1億6,414	83.0
農林水産業費	9億5,995	2億335	21.2
商工費	6億8,144	4億1,001	60.2
土木費	23億1,667	4億6,330	20.0
消防費	5億3,950	3億2,370	60.0
教育費	22億2,424	9億1,768	41.3
災害復旧費	0	0	-
公債費	16億2,172	7億9,357	48.9
予備費	916	0	0.0
合計	178億8,091	62億3,988	34.9

■特別会計

会計名	予算額	収入		支出	
		収入済額	執行率	支出済額	執行率
国民健康保険事業	36億5,933	12億7,637	34.9	15億4,033	42.1
後期高齢者医療	3億4,374	1億324	30.0	1億119	29.4
介護保険事業	32億1,648	12億9,636	40.3	13億8	40.4
簡易水道事業	8,657	3,414	39.4	3,250	37.5
下水道事業	17億7,029	2億9,236	16.5	7億8,528	44.4
農業集落排水事業	4億6,022	1億1,631	25.3	2億998	45.6
漁業集落環境整備事業	5,602	1,613	28.8	2,039	36.4
加斗財産区運営事業	8	4	51.6	0	4.5

■水道事業会計（企業会計）

	収入			支出		
	予算額	収入済額	執行率	予算額	支出済額	執行率
収益的収支	4億9,770	2億4,790	49.8	4億2,372	1億7,127	40.4
資本的収支	2億8,310	0	0.0	4億9,686	8,945	18.0

平成28年度上半期の財政状況

4月1日～9月30日の予算の執行状況などをお知らせします（9月30日現在）。

数値は表示桁未満を四捨五入していますので、合計などが合わない場合があります。

■問い合わせ 財政課 ☎64・6010

市民一人あたりで換算しました

市民1人当たりの税負担額	…116,713円
市民1人当たりに使われるお金	…593,360円
市民1人当たりの市債残高（借金）	…526,944円
市民1人当たりの基金残高（貯金）	…81,690円

※9月30日現在の人口 30,135人

【小浜市の財産と市債】

■市財産の現在高

土地	1,135,880㎡	
建物	170,764㎡	
山林	2,878,700㎡	
有価証券	9,300万円	
出資による権利	1億1,790万円	
基金	一般会計	24億6,174万円
	特別会計	4億9,942万円

■市債、一時借入金の現在高

一般会計	158億7,946万円
特別会計	174億9,007万円
企業会計	18億147万円
一時借入金	0万円

健全な
財政運営に
努めています



財政課 速水 主査



築200年の古民家を改修

ふるさと茶屋「清右衛門」が完成。遠敷地区のまちづくり拠点として活用(池田・10月22日)

鯖街道針畑越えに休憩所

上根来集落に古民家を改装した休憩所「助太郎」がオープン。観光情報も発信(上根来・10月23日)



期待高まる養殖サバの初水揚げ

日本遺産認定を契機に「鯖・復活プロジェクト」が始動。地域活性化の“旗手”に(田島・10月28日)



鯖サミットにぎわう 18000人が来場

県内外の21団体が自慢のサバの特産品を販売。小浜で鯖文化を全国に発信(川崎三丁目・10月4日)



ハロウィーンで「110番の家」巡り

今富小の児童ら約60人が仮装して地区内の「110番の家」を巡り、見守りに感謝(生守・10月30日)



若狭東高校「彦姫祭」で開発商品販売

地域の課題解決に総合産業高校の強みを発揮。開発商品などを発表(道の駅「若狭おばま」・11月3日)



しげやせんごろう 茂山千五郎家狂言ワークショップ

気分は狂言師。市民ら約20人が、立ち方、すり足など基本の動きを体験(旭座・11月13日)



子どもら約20人がスポチャンに汗

福井国体デモンストレーションスポーツのスポーツチャンバラ体験会を開催(後瀬町・11月13日)

姉妹都市からの贈りもの

中国西安市から寄贈された高さ約180cmの兵馬俑レプリカを市民ホールに設置(市庁舎・11月15日)



身近な問題 みんなで考えよう

市行政相談委員2人が小浜中学校1年生119人を前に出前教室を開催(雲浜二丁目・11月2日)



寄贈された成斎の書など西依家文書

儒学者で書家の西依成斎の書など史料約1200点を、滋賀の子孫が市に寄贈(市庁舎・11月8日)

集落営農のリーダー養成講座開講

持続可能な集落営農の実現目指し、農家56人が受講(JA若狭農業活性化センター・10月31日)



くらしの情報
12月
小浜市役所
〒917-8585 小浜市大手町 6-3
☎ 0770-53-1111 (代)
FAX 0770-53-0742 (代)
HP <http://www1.city.obama.fukui.jp/>

イベント

小浜男女共同参画のつどい

- 小浜男女共同参画ネットワークでは、「あなたらしく、わたしらしく、共に未来へ」をテーマに「男女共同参画のつどい」を開催します。男性も女性も、ともに輝き活躍できる社会の実現に向けた講演会です。
- ▼とき 12月3日(土)13時～16時
 - ▼ところ 働く婦人の家(大手町)
 - ▼演題 「男(ひと)女(ひと)が輝いてくゝころ元気でみんなが笑顔」
 - ▼講師 鎌田敏さん(こころ元気研究所所長)
 - ▼料金 無料
 - ▼問い合わせ 同ネットワーク 芝美代子さん ☎59・0154

家庭教育講演会

子どもに合わせたお片付け講座
生涯学習スポーツ課 ☎64・6033

市青少年愛護センターでは、園児や児童に片付け習慣を身につけさせる方法について学ぶ講演会を開催します。保護者以外の一般の人も受講できます。

- ▼とき 12月4日(日) 10時～11時30分
- ▼ところ 文化会館(大手町)
- ▼講師 吉田由香利さん(ライフォীগナイザー)
- ▼料金 無料

つきイチ「バラエティー」

文化会館 ☎53・9700

- ▼とき 12月7日(水)～21日(水)9時～17時(21日は15時まで)
- ▼ところ 庁舎市民ホール(大手町)
- ▼内容 小浜市歌人協会「短歌色紙展」

日本遺産大学第2回講座「小浜市の歴史」

商工観光課 ☎64・6019

日本遺産に認定された、海と都をつないだ小浜市の歴史について学べる講演会です。

- ▼とき 12月15日(水) 18時30分～20時

伊達巻き、鶏の松風焼き、へしこの手まりづくりなど、おせちの6種盛り、雑煮

- ▼定員 各先着30人
- ▼参加費 700円
- ▼申込期限 実施日の3日前

「自分たちでできる景観づくり活動」を募集

都市整備課 ☎64・6026

市では、市民の皆さんの手による景観づくり活動を募集します。地域の景観をよくする新しい試みに対し、材料費などにかかる経費の一部を支援します。

- ▼支給限度額 3万円
- ▼支給団体数 5団体
- ▼募集期間 12月5日(月)～1月13日(金)
- ▼応募方法 都市整備課窓口で配布する提案用紙に必要事項を書いて同課へ提出(書類審査あり)

迎春フラワーデザイン講座

働く婦人の家 ☎52・7002

- ▼とき 12月27日(火) 19時30分～21時
- ▼ところ 働く婦人の家(大手町)
- ▼内容 正月用フラワーアレンジメント作り
- ▼定員 20人
- ▼参加費 2500円(材料、花器代込み)
- ▼持ち物 花切りバサミ、持ち帰り用袋
- ▼申込期限 12月17日(土)

講正学舎入寮生

(公財)雲浜学舎 ☎03・3327・7800

講正学舎は、東京の大学に進学する福井県出身の男子学生専用マンション(ワンルーム型)です。運営する公益財団法人雲浜奨学会では、平成29年の新入寮生を募集します。

- ▼所在地 東京都世田谷区松原二丁目34の6
- ▼募集人数 9人
- ※詳しくはホームページをご覧ください (<http://www.unpin.jp/>)

小学生ショートテニス教室

生涯学習スポーツ課 ☎53・0064

- ▼とき 平成29年1月14日(土)～3月4日(土)の毎週土曜日9時30分～11時、計8回
- ▼ところ サン・サンホーム小浜(遠敷)
- ▼対象 市内小学1年生～4年生とその保護者
- ▼定員 20人
- ▼参加費 1500円(親子で参加の場合3000円)
- ▼申し込み 平成29年1月11日(水)までに同課へ

ミニジヨブカフェ小浜

キャリアデザインセミナー 商工観光課

ミニジヨブカフェ小浜では、女性の就職を応援するセミナーを開催します。

- ▼とき 12月9日(金) 13時30分～15時30分
- ▼ところ 働く婦人の家(大手町)
- ▼内容 【第1部】私自身の人生ストーリー(自分に合った働き方など人生設計を描く)、【第2部】パーソナルカラー診断(自分のイメージカラーを知る)
- ▼対象 おおむね39歳までの一般の求職者・在職者・学生(男性も参加可)
- ▼定員 先着15人
- ▼料金 無料

平成29年度小浜市奨学生

教育総務課 ☎64・6031

- ▼申し込み・問い合わせ ミニジヨブカフェ小浜(働く婦人の家内) ☎52・3542 (火曜～土曜日9時～17時)
- ▼対象 市内在住で、高校・高専・専修学校・短大・大学への進学を希望する人(貸付要件を満たす人)
- ▼奨学資金(月額) 高校・高専1万円、専修学校2万円、短大・大学3万円
- ▼返済期間 修業から6年以内(無利子・無担保)
- ▼申込用紙 各中学校・高校に設置
- ▼申込期限 平成29年2月13日(月)
- ※教育総務課へ問い合わせください

「心あたたまる手紙」作品

生涯学習スポーツ課 ☎64・6033

体験した温かいエピソードを

- ▼内容 人とのふれあいの中で
- ▼応募期限 1月11日(水)

福井しあわせ元気スポーツフェスタ2016 & まん福まつり

12月23日(金)祝、24日(土)両日とも10時～17時

同時間開催

市立図書館

短の手紙で紹介してください

各地区公民館に設置している応募用紙に住所、氏名を記入して提出

しりつとしょかん おはなしかい

とき 12月10日(土)
① 10時30分～
② 11時～
③ 14時30分～

内容 ① 0～2歳向け
②③ 3歳以上向け

おばま児童文学会「風夢」のおはなし会

とき 12月24日(土) 11時～

問い合わせ 市立図書館(白鬚) ☎52・1042

温水プールで運動不足解消!

これからの寒い時期、どうしても運動不足になりがちです。そこで、泳いだり、水中ウォーキングをして、健康づくりに取り組んでみませんか。特に水中ウォーキングは、腰やひざへの負担が少なくジョギングと同程度の有酸素運動でカロリー消費に効果が期待できます。この冬は温水プールへ!



【開館時間】
火曜日～金曜日 13時～21時
土・日・祝祭日 10時～18時
※レディースタイム(女性専用時間) 火曜日・金曜日の10時～13時

【料金】

区分	利用料金(2時間まで)	
	県内在住	県外在住
一般	280円	420円
高校生以上の学生	150円	220円
中学生以下の子ども	100円	150円

※市内在住の60歳以上の人には、市民福祉課でプール利用助成券が交付されます

■問い合わせ
若狭総合公園温水プール(北塩屋)
☎53・0450

お知らせ



還付金詐欺に注意!

消費生活相談室 ☎53・1140

市内で9月から10月の2カ月間に、還付金詐欺と思われる不審な電話に関する相談が6件寄せられました。市職員を装って電話し、「医療費の還付がある」などと言ってATM(現金自動預払機)に誘導し現金を振り込ませる手口です。市職員が電話で預金残高を尋ねたり、ATMに行くよう指示したりすることは決してありません。

電話で「ATM」ときたら、それは「詐欺」です。すぐに電話を切って市消費生活相談室まで連絡してください。



敦賀年金事務所 予約制年金相談

市民福祉課

敦賀年金事務所では、10月か

ら予約制による年金相談を実施しています。

▼予約申込方法 相談希望日の1カ月前から前日まで、電話または年金相談窓口で受付 ※予約の際は、相談者・配偶者氏名、基礎年金番号、電話番号、相談内容などを確認します

▼予約時間帯 (平日)月曜日8時30分～18時、火～金曜日8時30分～16時 (休日)原則第2土曜日9時30分～15時 ※予約状況により、希望日時を調整する場合があります

▼予約電話番号 敦賀年金事務所 ☎0770・23・9905 ※電話受付時間8時30分～17時15分(土・日・祝日・年末年始を除く)

※月2回、第2、4木曜日に開いている小浜出張年金相談は、2日前までに敦賀年金事務所

県社会福祉協議会 福祉人材確保各種貸付事業

福井県社会福祉協議会

(福)福井県社会福祉協議会では、福祉人材や保育人材の確保

を図るため、平成28年度から貸付事業を実施しています。

この貸付は、一定の要件を満たす人が、県内で保育士または介護福祉士等の業務に従事した場合、貸付金の返還が全額免除されるものです。

▼貸付金の種類 ①介護福祉士実務者研修受講資金貸付事業、②離職した介護人材の再就職準備資金貸付事業、③保育士就職準備金貸付事業

働く人の生活をサポート 「勤労者生活安定資金」

商工観光課

市では、北陸労働金庫と提携して、無担保の低金利で安心なローンを提供しています。

▼対象 市内に住所がある勤労者 ▼貸付金の使途 生活の安定と福祉の向上に必要な資金 ▼限度額 1人150万円以内 ▼貸付利率 期間3年以上5年以内 年利1.6% ※いずれも固定金利で10月1日現在

※保証料が別途必要です

▼問い合わせ 北陸労働金庫小浜支店 ☎52・1946



労働保険の早期加入を推進

商工観光課

労働者を一人でも雇用している全ての事業主が加入しなければなりません。加入がまだの事業主の人は、速やかに加入手続きを行ってください。 ※事業主に代わって労働保険事務組合が加入の事務手続きなどを行う事務委託制度もあります

▼問い合わせ 小浜公共職業安定所 ☎52・1260

人権週間で 特設人権相談

生涯学習スポーツ課

12月4日(日)～10日(土)の人権週

健康・福祉



生活習慣病検診

健康管理センター ☎52・2222

平成28年度最後の検診です。まだの人はこの機会に受診してください。

▼とき 12月2日(金)、7日(水) ▼ところ 健康管理センター(南川町)

▼内容 特定(基本)健診、がん検診(肺・胃・大腸・子宮頸・乳・前立腺)、C・B型肝炎ウイルス検査、骨検診 ※12月2日は胃がん検診なし。7日は子宮頸・乳がん

検診なし

▼申し込み 早めに申し込みを ※特定健診は、加入の健康保険者が発行した受診券が必要



休日レディースがん検診

若狭健康福祉センター

若狭健康福祉センターでは、働く女性のための休日がん検診を実施します。

▼とき 12月10日(土) 9時～10時受付

▼ところ ハーツわかさ店(遠敷九丁目)

▼申込期限 12月1日(金) ▼とき 平成29年1月22日(日) 9時～10時受付

▼ところ パロー小浜店(駅前町) ▼申込期限 平成29年1月13日(金) ▼対象と費用 乳がん 40歳以上の女性・子宮頸がん 20歳以上の女性・大腸がん 40歳以上の男女・500円

※乳がん、子宮頸がんは、平成27年4月以降に、大腸が

んは、平成28年4月以降に受けていない人

▼定員 各会場、各検診、先着40人 ▼申し込み 同センター ☎52・1300へ

※県内に住民票がある人が対象です。市町が発行する受診券や無料クーポン券がある場合は持参してください

認知症予防体操サークル

地域包括支援センター ☎64・6015

市では、簡単な計算やしりとりなどの課題を運動と一緒に行うことで、認知機能アップに効果がある「コグニサイズ」とい

雪に備える週間

都市整備課 ☎64・6027

12月1日(土)～7日(水)は「雪に備える週間」です。 冬を迎えるにあたって、路上駐車禁止、冬用タイヤ着用、防災施設周辺の除雪、路上に出ている枝葉の撤去などのルールやマナーについて、地域や職場などで話し合い、協力して雪対策を進めましょう。



れる運動プログラムを取り入れた体操サークルを開いています。

▼サークル名 脳とからだサークル ▼とき 12月5日(日)、16日(金)、ともに9時30分～11時

▼ところ 健康管理センター(南川町) ▼内容 ストレッチ体操、運動と認知トレーニングを組み合わせた「コグニサイズ」

▼対象 65歳以上の市民 ▼参加費 無料(申込不要) ※毎月2回程度開催。基本的に講師は不在で、参加者で協力して頭と体を動かします

まちの駅「旭座」イベント情報

※12月予定の主なものをお知らせします

旭座シネマ(映画会)

▶とき 12月4日(日) ①10時 「嵐を呼ぶ男」(石原裕次郎 主演) ②14時 「青い山脈」(吉永小百合 主演) ▶料金 いずれの回も500円 ▶問い合わせ 旭座再生の会(若狭ふれあいセンター) ☎53・2010

※市の旭座活用市民提案事業の助成事業です

若狭おばま日本遺産大学@旭座(第2回講座)

日本遺産に認定された、海と都をつないだ小浜市の歴史について学べる講座です。 ▶とき 12月15日(土)18時30分 ▶演題 「小浜市の歴史-地名・地形から海と都をつないだ港町小浜を再現する-」 ▶講師 下仲隆浩さん(商工観光課課長補佐) ▶料金 無料 ▶問い合わせ 商工観光課 ☎64・6019

旭座ちりとして寄席

▶とき 12月18日(日)14時 ▶出演 笑福亭生喬、桂吉坊 ▶料金 2,000円 ▶問い合わせ ちりとして落語の会 ☎53・0878

まちの駅・旭座特別企画「旭座ドリームクリスマス」

▶とき 12月24日(土) 【クリスマスジャグリングショー】 ①10時30分 ②14時 【おかえりなさいドキドキボックス】 ①11時30分 ②15時 ▶とき 12月25日(日) 【イヤイヤちゃんハッピークリスマス】11時 【ちびっこサンタの大冒険】14時 ※事前申し込みが必要。詳しくは、福井テレビ企画部 ☎0776・21・2240へ 【クリスマス童話の読み聞かせ】15時40分 ▶料金 無料 ▶問い合わせ まちの駅 ☎52・2000

まちの駅イルミネーション点灯(17時～22時)

▶期間 11月25日(金)～平成29年1月15日(日) ※毎日4回、音と光の「夢眼ショー」開催 ▶問い合わせ まちの駅 ☎52・2000



施設	12月								1月					問い合わせ・備考
	24 土	25 日	26 月	27 火	28 水	29 木	30 金	31 土	1 日	2 月	3 火	4 水	5 木	
市役所	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○	市役所（代表）☎53・1111 12月29日～1月3日の出生、死亡などの「戸籍の届け出」「火葬の予約」は、宿日直の職員が受け付けします
市立図書館	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	☎52・1042
温水プール	○	○	○※	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○※	☎53・0450 ※26日は10時～18時まで、1月5日は13時開館で21時まで
子育て支援センター	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○	☎56・3386
食文化館	○	○	○	○	×	×	×	×	○※	○※	○※	×	○	☎53・1000 ※1月2日～4日は10時～16時まで
濱の湯	○	○	○	○	○	○	○	○	○※	○※	○※	○	○	☎53・4126 ※1月1日～3日は7時オープン
濱の四季	○	○	○	○	×	○	×	×	○※	○	×	○	○	☎53・0141 平日は11時～14時30分（ラストオーダー14時）、土・日・祝日は11時～20時30分（ラストオーダー20時）の営業、定休日は毎週水曜日（祝日の場合は営業） ※1月2日は11時～14時30分（ラストオーダー14時）の営業
道の駅「若狭おばま」	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○※	○	○	○	☎56・3000 ※1月2日は10時～18時まで物販施設のみ営業（フード部門は休み）
あいあいバス	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	人口増未来創造課☎64・6008
ごみの収集	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	環境衛生課☎64・6016
クリーンセンター	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	☎53・5550 受付時間は9時～16時まで
リサイクルプラザ	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	☎59・9000 事業所でリサイクル可能な資源ごみを持ち込む場合は12月28日☎までに環境衛生課の承認を受けてください。個人は不要です。受付時間は9時～16時まで
し尿のくみ取り	年末は大変込み合いますので、12月16日☎までに予約してください												㈱アクアテック☎64・5460	

古着・廃小型家電を回収します

■問い合わせ 環境衛生課☎64・6016

市では、燃やすごみの減量化、リサイクルの推進を図るため、無料で古着回収・廃小型家電回収を実施します。

とき 12月10日☎9時～12時

ところ クリーンセンター（谷田部）

対象

【古着回収】

洗濯された衣類全般（下着、靴下、毛布、ふとん、タオルなどは対象外）

【廃小型家電回収】

15センチ×25センチの回収ボックス投入口に入る大きさの

携帯電話、デジタルカメラ、電子手帳、ゲーム機器、携帯音楽プレーヤー、電卓などの廃小型家電（電池、電動工具、パソコン、CDなどの記憶媒体、テレビなどの家電リサイクル法対象品目などは対象外）

※雨天決行。古着は雨にぬれないように持ち込んでください

※当日は、古着と廃小型家電以外の家庭ごみや粗大ごみは受け付けできませんので、注意してください

※3月にも予定しています

第15回

杉田玄白賞 受賞者決定

郷土の偉人の功績をたたえ進歩的な研究を表彰

市では郷土の偉人・杉田玄白の功績をたたえ、毎年テーマに沿った進歩的な研究や取り組みを行っている人の中から功績顕著な人を表彰しています。

7月上旬から全国に第15回「杉田玄白賞」の募集を呼びかけたところ、15件の応募がありました。10月17日に審査委員会で審査した結果、「杉田玄白賞」と「杉田玄白賞奨励賞」に次の2人が選ばれました。

表彰式と受賞者による記念講演会を開催しますので、興味のある人はぜひお越しください。



木村 郁夫 さん

(40歳・東京都)
東京農工大学大学院 テニュアトラック特任准教授

【杉田玄白賞】

腸内細菌の働きと健康の関わりを解明

食由来、特に食物繊維由来の腸内細菌代謝物である短鎖脂肪酸や、食用油に用いられるオメガ脂肪酸による抗肥満・代謝機能改善に至る仕組みを世界で最初に明らかにしました。その成果をもとにした機能性食品の開発にも取り組まれています。これらの研究が高く評価されました。

記念講演会演題

「食と腸内環境に基づいた生活習慣病予防戦略」



森 真理 さん

(47歳・兵庫県)
武庫川女子大学国際健康開発研究所 講師

【杉田玄白賞奨励賞】

適塩食の普及と食育ボランティアに尽力

世界25カ国61地域の疫学研究成果の適塩バランス食の普及と自らが国内外で実施した食育研究成果を生かした効果的な食育プログラムを実践し、科学的根拠に基づく体験食育講座や食育ボランティア活動の振興に尽力されています。これらの活動が高く評価されました。

記念講演会演題

「1日1膳プロジェクトの秘密」

表彰式・記念講演会

とき 12月10日☎
13時～15時45分
ところ 杉田玄白記念公立小浜病院本館9階(大手町)
料金 無料

■問い合わせ 文化課☎64・6034

小浜美郷小学校建設工事が起工

■問い合わせ 教育総務課☎64・6032



小浜美郷小学校と同校舎内教室の完成イメージ図

木のぬくもりを感じる教室と吹き抜け空間が特徴

10月27日☎、小浜美郷小学校建設工事の安全祈願祭・起工式が、金屋地係の建設地で行われました。平成31年4月の開校に向け、建設工事が始まりました。

校舎は、基本的に鉄筋コンクリート造りで、屋根のほりなど一部は木造。木のぬくもりを感じることが出来る教室や吹き抜け空間を設け、幅広い学習活動に活用します。

■規模

【校舎】鉄筋コンクリート造+木造+鉄骨造2階建て、延べ床面積5,085.50平方メートル、普通教室12室、特別支援教室3室、ラーニングセンター、特別教室ほか

【屋内運動場】鉄筋コンクリート造+木造1階建て、延べ床面積1,085.24平方メートル

「現場で体を動かすのが一番性に合っています」と、つなぎの作業服に身を包み、高校時代ラグビーで鍛えた体で現場仕事をこなす嶋口雄尊さん。仕事の内容は、足場や配管の組み立て・解体のほか、鉄鋼材料を扱う鍛冶屋仕事など幅広く、経験がものをいうようです。高校を卒業して製造業に就職。流し作業が性格に合わず、転職を決意して父に相談。父の事業所の一員として加えてもらい、一緒に仕事をすることになりました。

仕事も生活も「地元が一番」

「仕事も大事ですが、この地元で暮らすことを一番に優先します」と話し、「遠敷祭の太鼓にずっと関わっていたいんです。祭りのためにも地元で働き、暮らしたいです」と、きっぱり。仕事以外にも、若狭東高校ラグビー部OBとして後輩の練習相手をしたり、市内のバスケットボールチームに所属したりと、活動的です。趣味はバイクの「ハーレー」。「一生涯モノとして今年手に入れました。夢はアメリカを走ることで」と、目を輝かせ、毎日が充実しています。



勤務先 嶋口工業
しまぐち ゆうや
嶋口 雄尊 さん
(21歳・遠敷五丁目)

いつか指導者として恩返しを

男子バスケットボール部キャプテンの井上くん。小学4年生から地域のチーム『サンロケッツ』でプレーし、中学校でも現在の部活を選びました。バスケットボールの魅力を探ると、「個人プレーよりも、チームプレーからゴールが生まれたときが一番うれいんです」と笑顔をみせます。10月の若狭地区大会では、試合中に負傷して途中交代。チームも敗退し、悔しい思いをしました。冬の大会での地区優勝を目指し、毎朝、チームメイトとシュート練習に励みます。

憧れの選手は、世界ナンバーワンプレイヤーとされるレブロン・ジェームズ(アメリカ)。「プレーだけじゃなく、強いリーダーシップや諦めない心を見習いたいです」と熱く話します。「勉強にもしっかり取り組みたい」と話す井上くんの将来の夢は、地元で鉄道関係の仕事に就きながら、『サンロケッツ』のコーチをすること。「いつかバスケットボールの指導者になりたいです。小学生を教えて、自分が育ててもらった恩返しをしたいですね」と力強く目標を語りました。



男子バスケットボール部 キャプテン
いのうえ ふうた
井上 楓太 くん
(小浜中学校2年生)

海に恵まれた小浜で学びの場を

昭和36年に設立され、50年以上の歴史を誇る小浜海洋少年団。「海に親しみ海に学び海に鍛える」をスローガンに、海の活動を通して、子どもたちの健全育成を担ってきました。少子化の影響で団員数が減少し、平成24年から休団状態となりましたが、OBの山森さんから市民有志が立ち上がり、今年5月から活動を再開。現在は、小学生の男女10人が所属しています。「海に恵まれた小浜で、学び、体験できる場所を作りたいです」旧小浜水産高校で校長を務めた経験

を買われて団長に就任した山森さん。「海の魅力を感じてほしい」と、シュノーケリングや元漁業実習船・雲龍丸（くもりゅうまる）の操舵体験などを企画。「子どもたちの『楽しかった』という笑顔が一番うれいんです」と、ほほえみます。目標は、海洋少年団の全国大会に出場すること。「全国から集まる仲間との交流を通して、世界を広げてほしいですね」と、話してくれました。団員を随時募集中。小学生から高校生で活動に興味のある人は、生涯学習スポーツ課 ☎64・6033まで。



小浜海洋少年団 団長
やまもり ともつく
山森 友嗣 さん
(63歳・千種一丁目)

体力、筋力、体幹アップで前進

9月の若狭地区新人戦で一位となり、好調なスタートを切ったソフトボール部のキャプテン清水杏莉さん。「今まで以上に、伸び伸びとプレーできたことがよかったです」。しかし、10月の県大会では1回戦敗退。「みんな緊張して本来のプレーができませんでした」と分析し、精神面など今後の課題を見つけました。ソフトボールとの出会いは、入学時の体験入部。自身の目標にしている先輩の前キャプテンに誘われたのが始まりです。「全員で喜びを分かち

合えるのが魅力です。今では部活をするために学校に来ている感じがです」。部員は、1、2年各6人の12人。全員の投票でキャプテンを引き受けました。「声出し」と「積極的なところ」が評価されたのかな」とはにかみ、「もう1回、地区1番になって、県大会に挑戦したいです」と抱負を語ります。来春の大会に向け、「体力、筋力、体幹アップ」を掲げ、ハードな練習メニューをこなします。「メンバー全員のモチベーションアップで乗り切りたい」と明るく元気に話します。



ソフトボール部 キャプテン
しみず あんり
清水 杏莉 さん
(小浜第二中学校2年生)

薬草コウギクの畑

竜前企業団地の近くに、かわいい黄色と白色の花が咲く畑があります。今年の4月から小浜に移住し、薬草栽培に取り組んでいる地域おこし協力隊・橋本隊員（市役所農林水産課所属）の畑です。

その畑では、薬草の「コウギク」を育てており、地域の高校生と一緒に商品化を考えたり、不定期で収穫祭などのイベントを行っています。

11月現在では、その花を収穫する作業が行われています。コウギクに興味がある人は、ぜひ一度連絡をください。

小学生の通学路にもなっている沿道の畑で、子どもたちに元気よく声をかけながらの収穫作業は、コウギクとともに小浜の新しい風景になりそうです。



【問い合わせ】
地域おこし協力隊 橋本 ☎ 64・6022

【アクセス】
竜前 6-22
JR 東小浜駅から車で3分程
舞鶴若狭自動車道小浜ICから車で各10分程
(文と写真:地域おこし協力隊ハラ)

健康長寿のススメ

知って得するがん検診② 「胃がん」

危険因子と予防因子
胃がんの危険因子と予防因子は下表にまとめたとおりです。胃がん特有の要因として、ヘリコバクターピロリ菌感染があります。ピロリ菌は、非常に強い酸性である胃液の中でも生き続けている細菌で、胃粘膜に住み続け、慢性胃炎、胃潰瘍、胃がんの発生に関与します。

胃がんの特徴
胃がんは、胃の最も内側にある粘膜の細胞にできます。大きくなるにしたがい、胃の壁の中に入り込み、外側にまで侵食します。近くの肝臓などに転移すると、命に関わることとなります。症状は、早い段階で自覚症状が出ることは少なく、かなり進行しても無症状の場合があります。胃の痛みや不快感、違和感、食欲不振などの症状があります。これらは胃がん特有の症状ではなく、胃炎や胃潰瘍の場合も起こりますので、検査をしなければ確定診断はできません。胃がんは、男性が女性より多く、男性は肺に次いで第2位、女性は肺、大腸に次いで第3位の死亡率となっています。

胃がん検診を受けましょう！

- 50歳から2年に1回、欠かさず受けること
- 検査はバリウム検査か内視鏡検査
- ピロリ菌検査でがんになるリスクの強さを確認



■胃がんの危険因子と予防因子

危険因子	予防因子
喫煙	野菜
多量飲酒	果物
塩分多食	豆
油脂・肉類多食	穀物
運動不足	海藻
肥満	緑茶
ピロリ菌感染	

※健康管理センターや各公民館などで実施している検診パスによる集団健診や、指定医療機関で受ける個別健診では、1万円程度のバリウム検査を1,000円で受けることができます。平成29年度から、市の胃がん検診の対象が「50歳以上、年度末偶数年齢の人のみ」に限定されますので、受けたことがない人は、今年のお勧めです。

- 次回のテーマ
知って得する がん検診③
「大腸がん」
- 問い合わせ 健康管理センター
☎ 52・2222

支えるチカラ

平成7年設立の『若狭日本語の会』では、地域で暮らす外国人に日本語を教えるボランティア活動をしています。講師1人が生徒1〜2人を受け持つ担当制。4月に会長に就任した内堀さん（写真右）も毎週金曜日に生徒2人に日本語を教えています。

「日本語は言葉の数が多くて複雑なので、習うのも教えるのも大変です」と、話す内堀さん。教員だった経験を生かして、テキスト以外に手づくりの教材を使うなど工夫を凝らします。大切にしているのは、相手の立場に寄り添うこと。「基本的な日本語よりも、生活の中で困らないように、その人に合わせた教え方をしています」。言葉と一緒に習慣を教えたり、悩みことの相談に乗ることもあるそうです。そんな内堀さんに、やりがいを感じるように、「自分が教えるだけじゃなく、相手の国の文化も学べることです。ボランティア活動で自分の世界も広がります」と、笑顔で話してくれました。

相手の立場に寄り添いながら



若狭日本語の会 会長
うちぼり たえこ
内堀 妙子 さん
(62歳・生守)



小浜市歌人協会 会長
かのう のぶこ
加納 暢子 さん
(80歳・山手一丁目)

アート&カルチャー

日々、心の中の「宝石」を磨いて

「『自然は最高なり』。歌人・若山牧水の高弟であった竹中皆二先生から教えられたこの言葉がしみじみとわかるようになってきました」
中学2年生の時から短歌に親しみ、現在も、通信講座を受講して表現力を磨いているという加納暢子さん。
自身は、いずみ短歌会の代表を務めながら、市内8つの歌会を束ねる市歌人協会の会長として、市をはじめ県歌人連盟の歌会などの開催を通じ、短歌の発展に尽くしています。
「会員総数は約80人。小浜は短歌の

盛んな地域だと思います。山川登美子や二条院讀岐など、この地にゆかりのある歌人の存在も大きいですね」
年を重ねるごとに歌の対象も変わってきたとか。「若いときは、子どもの成長を詠んだりしました。今は、日々の生活の中での自然の営みが新鮮に映り、自然に寄り添う感じが飾らずにそのままを歌にしています」
新聞歌壇で見つけた「歌を作る人は心に宝石を持っている。その宝石を磨きなさい」という選者の言葉に心を動かされ、創作にいそむ毎日です。

■子育て情報



子育てサロン※

とき：6日㊦
9時30分～11時30分
ところ：子育て支援センター
☎同 ☎56・3386
子育て相談会やクッキングなど、育児のアイデアを提供しています

のびのび広場※

とき：7日㊦
9時30分～11時30分
ところ：子育て支援センター
☎同 ☎56・3386
季節に応じた活動や運動会など、子どもが楽しむ親子遊びを提供します

誕生会※

とき：21日㊦
9時30分～11時30分
ところ：子育て支援センター
☎同 ☎56・3386
今月に誕生日を迎えるお子さんのお祝いを楽しみましょう

■今月の休館日

- 市立図書館
6日㊦・13日㊦・18日㊦・20日㊦・23日㊦・27日㊦～31日㊦
- 若狭図書学習センター
5日㊦・12日㊦・19日㊦・22日㊦(2Fのみ)・26日㊦・29日㊦～31日㊦
- 温水プール
5日㊦・12日㊦・19日㊦・27日㊦～31日㊦
- 市民サービスコーナー
18日㊦・23日㊦・29日㊦～31日㊦

■今月の休日当番医

- 4日㊦：★田中整形外科病院(千種一丁目) ☎52・6868
- 11日㊦：★しんたにクリニック(駅前町) ☎64・5321
- 18日㊦：★山手医院(山手一丁目) ☎53・5511
- 23日㊦：中山クリニック(多田) ☎56・5588
- 25日㊦：★吉井医院(塩竈) ☎52・0028
- 30日㊦：★田中病院(遠敷十丁目) ☎56・5353
- 31日㊦：西津診療所(北塩屋) ☎52・1560

※★印のついた当番医の日は、小児患者は、杉田玄白記念公立小浜病院(大手町)で小児科医が休日診療を行います

■今月の窓口

- 税の納付窓口
休日納付窓口
25日㊦：9時～17時
夜間納付窓口
27日㊦：20時まで
- 1階窓口延長
毎週金曜日(祝日・年末年始を除く)、市役所1階の窓口(市民福祉課、高齢・障がい者元氣支援課、子ども未来課、税務課、環境衛生課、会計課)では、執務時間を18時30分まで延長しています。

■体や心・生活の相談



エイズ・肝炎相談、検査

とき：5日㊦、19日㊦
9時～10時30分
世界エイズデー 夜間検査
とき：1日㊦
17時30分～19時30分
ところ：若狭健康福祉センター
☎同 ☎52・1300

精神保健相談※

とき：6日㊦、20日㊦
9時30分～11時30分
ところ：若狭健康福祉センター
☎同 ☎52・1300
心の病気や、心の悩みに関する相談に応じます

身体障がい者相談

とき：16日㊦
13時～14時
ところ：公立小浜病院
☎高齢・障がい者元氣支援課 ☎64・6012
身体障害者手帳の交付・更新、補装具の交付などの相談に応じます

au お得な静電をおとどけっ！

facebook 「エコーショップがバマ」で検索！

twitter @aushopobama

au ショップ小浜 ☎0800-7002298

安全と快適を生む環境づくり。
ビル総合管理・警備保障システム

AIVIX
株式会社アイビックス

若狭支店 / 917-0241 小浜市遠敷7丁目112
TEL:0770-56-0266 FAX:0770-56-0268

冬至柚子風呂開催

12月21日[水]～23日[祝]

23日[祝]限定！！21・22日は入浴前のお風呂です。
本物柚子をたくさん浮かべます
♪柚子湯に入って元気を冬を乗り越えましょう♪

小浜市川崎3-4 御食園若狭おばま
食文化館内
TEL:0770-53-4126
お食事だけの利用もできます！

カフェ・ぽ〜れ

特設人権相談

心配ごと相談

家庭教育相談

とき：8日㊦
13時30分～15時
ところ：花水木(鹿島)
☎坂上和代さん ☎090・5686・4147
認知症など高齢者の相談窓口です ※参加費 100円

とき：21日㊦
13時～15時
ところ：働く婦人の家
☎法務局 ☎52・0238
悩みごと、心配ごとのある人は、気軽に相談してください

とき：14日㊦
13時～16時
ところ：サン・サンホーム
小浜
☎同 ☎56・5802
介護など生活での困りごとの相談に応じます

とき：17日㊦
14時～17時
ところ：中央公民館
☎同 ☎53・1336
青少年との親子関係や家庭における悩みなどの相談に応じます

ゴミ分別・収集日通知無料アプリ！

ごみサポ！

完全無料
分別検索 アラーム通知

スマホ全対応

自治体・学校教育機関向けソリューション・データセンター
福井システムズ株式会社
若狭営業所
小浜市小浜清滝102 ☎(0770)52-6360
URL http://www.fukui-systems.co.jp/

地元学生応援キャンペーン
入校絶賛受付中！(2017/3/30迄)
早めの入校をお勧めします！

小浜自動車学校

地域に愛され、貢献できる学校を目指しています

〒917-0023 小浜市府中14-23
☎0120-52-0839

安心と信頼 地元の石屋さん
お墓ディレクター(1級)在籍
(日本石材産業協会登録第12-100024号)

(有)杉田石材店

お気軽にお問い合わせください
現在、仮社屋で営業しております
▼仮社屋の住所等ははこちらです
小浜市和久里15-22-8
☎(0770)56-5212・FAX(0770)56-5215

■法律や行政・その他の相談

相談名	開催日	時間	ところ	問い合わせ
結婚相談	1日㊦、15日㊦	9時30分～11時30分	文化会館	子ども未来課 ☎64・6013
弁護士無料相談※	6日㊦	13時30分～15時	働く婦人の家	福井弁護士会 ☎0776・23・5255
出張年金相談※	8日㊦、22日㊦	10時～12時、13時～15時	文化会館	敦賀年金事務所 ☎0770・23・9905
高齢者専門相談(法律)※	15日㊦	13時～16時	嶺南地域福祉相談・介護実習普及センター	同 ☎52・7832
行政相談	20日㊦	13時30分～14時30分	市役所4階大会議室	市民協働課 ☎64・6009

人の動き(11月1日現在)

- 人口 30,107人 (前月比 -28人) (前年同月比 -283人)
男性 14,685人
女性 15,422人
世帯数 11,912世帯
- 異動 転入 32人
転出 49人
出生 23人
死亡 34人

編集後記

●今月号では、給食と農業を特集▶取材では、紙面に掲載している以外にも、多くの関係者の皆さんにお世話になりました▶食も農も、日々営まれていることではありますが、スポットがあたる機会はなかなかありません▶しかし、そんな小浜に住む人が紡ぐ日常こそ、尊い行為があり、誇るべきものがあります▶活動を報せ、誇りを広めるといふ広報の使命を胸に、今後も頑張ります(松)

●11月5日、朝5時起床。空に星がきらめくのを確認▶車を走らせおにゅう峠に着くと、琵琶湖側がうすらと明るくなり、峰々が重なる眼下の谷間には綿菓子のような雲海が広がっていました▶分水嶺で分かれる風景の違いと、そこに集まる人、人に驚嘆▶陽が上がるのに合わせ、沸き上がる雲の動きにシャッターが連動。景色の変化に釘付けとなりました。行ってよかった…(橋)



焼きイモ（口名田保育園・11月8日）

「焼きイモ 焼けたよ おなかかグー」

秋空の下に子どもたちの歌声と笑い声がこだまする。

この土地の太陽と水で育った野菜を食べて、みんな大きくなる。

「すくすく」と「くすくす」ってなんだか似ているね。

今日も食べよう 今日を笑おう かけがえのない今を生きよう。

